



# 団だより

「ちかい」をたてるボーイ隊上進スカウト(昨年度の入隊上進式より)

**未** 曾有の大災害となった東日本大震災から、この9月で一年半が経過しました。発災当初日本全体を覆っていた危機意識は徐々に薄れ、震災に関する報道もめっきり減ってきました。

しかし被災地では、復興に向けた整備工事が槌音高くスタートしている場所もある一方で、うずたかく積み上げられたがれきの山に夏草が生い茂り、あたかも最初からその場所は小高い丘か荒野であったかのような地域が、まだ広範に亘って残されています。そういった地域では総合的な復興計画が立っていないことも多く、未だに沢山の人が仮設住宅で厳しい暑さ・寒さをしのぎながら生活されています。

仮設住宅が学校の校庭を利用して建てられている場所では、自由に校庭を使った授業や部活動ができません。また、沿岸部で自校の校舎が被災したために中学校の一部を間借りしている小学校では、設備が小学生には大きすぎたり低学年向けの遊具がなかったりと、被災地では子どもたちの学びの環境も未だに支障ある状況が続いています。しかし、そのように不自由な環境の中でも、子どもたちは元気いっぱい遊び、学び、そして亡くなった身近な人々に代わって「将来は家族と郷土を支えられる人になろう!」と、頑張っています。私は、斯様な被災地の子どもたちに接するにつけ、「今、自分たちに何ができるのだろうか」と自問自答しています。

◎

私たちの運動では、子どもたちが様々な経験を積み重ねて、大人になった時に自らの責任と使命を自覚し役割をきちんと果たすことの出来る人間、この国の「真の復興」の実現をリードして行けるような「よりよき社会人」としての成長をめざします。それは「**神と国とに誠を尽くしおきてを守ります**」というスカウトの「一つ目」の「ちかい」の精華そのものです。

また、スカウトは「二つ目」の「ちかい」として「**いつも、他の人々をたすけます**」



## あらためて、皆で「ちかい」の実践を!

団委員長 當麻洋一

を掲げ、幼い時から他者に対する奉仕を実践しています。本団のスカウトたちも、毎年お正月にはユニセフ募金奉仕のため、半袖のユニフォーム姿で元気よく厳寒の街頭に立ち、残暑厳しい9月、「スカウトの日」に合わせて身近な生活圏の清掃・美化奉仕を行います。もちろん、昨年は東日本大震災の被災地支援についても年齢・部門に応じて積極的に取り組みました。

しかし、何よりも大切なことは、社会や他者に対して立派に責務を果たすために、まずはしっかりと普段の活動の中で丈夫なからだを作り、スカウトの「心」と「技」を磨いて行くこと、つまり「三つ目」

の「ちかい」である「**からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います**」の実行に日々怠りなく努めることなのです。

◎

私は、本団の全てのスカウトと成人が、一日に一回だけでも「ちかい」を思い起こし、その日その時のつとめをしっかりと果たすことが「今、自分たちにできること」であり、被災地の人々に心を添わせ、長く厳しい復興への営みを支え続ける一助にも通じると信じます。秋から始まる新しい一年、隊・団における活動の一つひとつが、成長への大切な機会として楽しく・有意義なものとなるように、皆で力を合わせて元気に取り組んで行きましょう。

**【ちかい】**は、文中に挙げた「3か条」と「前文」からなり、スカウトがボーイ隊に上進する際、または成人が初めて指導者として加盟登録する際にたてます。「ちかい」とその実践項目とも云える「おきて」の考え方を、より平易な言葉で表現したものが、ピーパーやカブそれぞれの「やくそく」と「きまり」・「さだめ」です。

# B/S

ビーバー隊

## 楽しかった この1年



まだ年長の時、僕は仲間を増やしたくて、雪の中でパンフレットを配っていた。そしたら少しずつ人が集まって、団体活動ができるようになり、本当に寒い中頑張ってよかったと思っし、嬉しかった。なぜかという  
とみんなでゲームしたりキャンプして喜んだり出来るから。これからもカブとビーバー一緒に活動がたくさんできると嬉しいです。

★大矢貴一

海での運動会…特にパン食い競争、靴投げ競争が楽しかったです。

★入内島もも

運動会は楽しかった。また来年も頑張りたいです。

★大箭明日香

キャンプのキャンプファイヤーが熱くて楽しかったです。キャンプの川が冷たいのにお風呂みたいにつかって楽しかったです。

★鈴木大和

もういちど絵具をやりたい。

★作山耕平

運動会のパン食い競争が楽しかった。竹の水鉄砲の時、休んだからもう一回して欲しい。ボーイスカウトは色々な事をするから楽しい。

★落合利安生

もう一回やってみたい事はキャンプ。好きだったのは、川遊び、思い出をかけたこと。川の水は冷たくて気持ち良かった。

★亀田怜大

キャンプで自分がやったお芝居が楽しかったです。今度やりたいことは、みんなで木のぼりです。

★高田 廉

今までの中で1ばん楽しかったのはキャンプです。その中でも1ばん楽しかったのは川あそびとトーテムポールを作ったことです。

★高橋寛人

自然の中でたくさん遊んで、楽しかったです。

★井上留美音

もう1度やりたい活動は、水鉄砲、バザー、ナイトハイクです。楽しかった事はピバリンピックで、やってみたいことはスイカ割りです。

★岩田礼夢

野外料理をまたやりたい。マシユマロを焼くのはまずそうだと思っただけ、食べたらすごくおいしかった。

★関谷章馬

一番楽しかったのはキャンプ。川遊びが楽しかった。

★大磯 遼

キャンプのときのことが楽しかった。蛇や大きな 蜘蛛の巣があり面白かった。川で遊んだことも楽しかった。

★秋山紗良



### ( 保護者の方から )

一年間楽しく、そしていろいろな体験ができ、大きく成長したと思います。これからはカブ隊での成長を楽しみにしています!

【入内島】

生まれで体も小さく、幼い娘でありましたが、皆様との交流を通じて、精神的に強くなってきたように思います。

自分で人生を切り開いていく人間になれるよう、そして、常に労りの精神で人に接することができるよう、今後の活動に期待を致します。

【大箭】

キャンプファイヤーが立派で夏休みを満喫できました。活動では毎回保護者の方とお話できて楽しいひとときでした。

【鈴木】

長兄で、なかなか落ち着いた活動が出来なかった我が子も、4月から小学生となり…少しはカリキュラムをこなせる様になったのでは!?(^^;

スカウトも増えてきて、今後も団結!!してやっていってほしいです。

【井上】

子供から大人まで様々な立場・年齢の人と交流し 社会勉強できることが素晴らしいです。スカウト活動を通して視野が広がってくれたら良いと思います。

【関谷】

この1年、また色々な活動に関わらせていただきました。日常ではなかなか出来ないことも、ボーイスカウトの活動によってすることが出来たり、思い出すことが出来たり。

子供だけではなく一緒に参加することで、得たものも多かったと思っています。キャンプではいつもの活動とは違い、カブ・ボーイ・ベンチャー・ローバースカウト達と指導者の方々と一緒に活動をするのですが、いろんな場面で一番下っ端のビーバー達をみなさんが引っ張ってくれていると感じました。楽しさと一緒に仲間と活動していくことの良さを、感じ取って欲しいと願っています。

【高橋】

キャンプファイヤーが楽しかったです。具合が悪くてほとんど参加してないですが、見ているだけで楽しめました。

カブやボーイやベンチャーの子たちを見て将来あぁなってくれればいいなあ、とこれからの活動の励みになりました。貴一君と一緒に頭まで浸かって遊んだのが楽しかったのでしょうか。

これまでほとんどお話していなかった、寛人君や大和君とも仲良くなれて嬉しそうでした。新しい友達ができただけは良かったです。

【大磯】

### ( リーダーから )

センス オブ ワンダーを大切にしたい。子どもだけでなく、大人も一緒に楽しんで成長できる場にしたい。大いに語り合ひましょう。

【隊長・守田智恵】

気一杯のビーバー達を楽しませようと奮闘したつもりですが、いつのまにか一緒に楽しんでいました。

【副長・笹沼武志】

スカウト達が一年間、経験した事を忘れずに、普段の生活や活動に生かして欲しいです。

【副長・入内島太郎】

今年、インストラクターから副長になり、責任感がさらに増しました。これからの活動がより良いものになっていくように頑張っていきたいと思います。

【副長・鈴木大二郎】

# CS カブ隊

## (1年間をふりかえって)

隊長・**新井克基**

**今** 期は指導者4名体制でスタートしましたが、3月は非常に残念なことがありました。副長の一人が突然亡くなったこと。副長には謹んで哀悼の意を表します。その後、春には2名の副長が強化増員され、指導者5名体制でスカウト活動を進めることとなりました。しかし、指導者も世情と共にまた年代的に多忙な生活を余儀なくされていることもあって、指導者5名が集まる集会はかなわなかったが、指導者間の連携と入替り参加の体制によりほぼ計画通りに活動を進められたことは、各指導者達の熱い活動への思いがあつたことと思います。今後も「よき理解者」である保護者指導者の拡充が重要な要素と思います。

その結果、「自然と仲良くなろう」とした年間テーマにそって年間23回の活動を実施することができました。

この1年間の活動は、関係者の皆様からは物足りなさも感じられたかもしれませんが、楽しく活動ができたことは、保護者の皆様、リーダーの皆様、団関係者の皆様のご支援ご協力のたまものと深く感謝いたしております。ありがとうございました。

## (キャンプを振り返って)

デンリーダー・**宮井佳世**

**今** 年の「夏の村」は、道志村での二泊三日のキャンプでした。野外調理やクラフトづくりなど盛りだくさんの内容で、スカウトたちは時間に追われ、さぞかし大変だったろうと思いますが、それぞれこなすべきところはしっかりこなし、成長を感じさせてくれました。特にキャンプファイヤーでのスタンプは、時間さえあれば、練習練習。

やりたいことはたくさんあるけれどもなかなかまとまらない、という状態で本番を迎えました。野外のためなかなか声

が通らず、見ている皆さんには内容がわかりにくかったかもしれませんが、本当に「一生懸命」頑張ったのですよ。

最終日は、DLのみになってしまうということで、不安はありましたが、ビーバー隊の笹沼副長がカブ隊についてくださり、無事、プログラムを終了することができました。また、行きの車内にて、初日でテンションの高いスカウトたちの全エネルギーを、一身に受け止めてくださった岩城副長、さぞかしお疲れだったことと思います。本当にありがとうございました。

楽しそうなスカウトたちに、つついDLというよりも「うるさいおばさん」になってしまった三日間でしたが、皆元気に過ごすことができました。一年前よりも確実に成長している姿を頼もしく思います。今後の活動にも期待していきたいです。



## (キャンプの思い出)

**わ** たしは、2012年8月4日土曜日から山梨県の道志村のスカイバレーキャンプ場で二泊三日のキャンプをしました。

まず、一日目はついてからすぐ、夕食のしたくをしました。カブは自分たちで夕食をつくるのでたいへんでした。一番たいへんだったのは、火を起すことです。二時間ぐらい交替で火をつけようとしたのですが、二時間たってもつきませんでした。けれどもおいしいカレーが食べられて良かったです。

次に、二日目は、朝食を食べてから、車で十分ぐらいの所にある小学校で部屋にかざる、かんぱんを作りました。楽しかったです。午後から、団の全員でラリーをしました。その後、夜に「キャンプファイヤー」をやりました。カブはドラえもののげきをやりました。そこで、わたしは、ドラミ役をやりました。あんまりセリフがなかったのでぜんねんでした。みんなで「新幹線」をやりました。楽しかったです。

三日目は朝から「UNO」をやりました。楽しかったです。朝食でサンドイッチを食べました。パンを四枚ももらったので四枚重ねて食べました。おいしかったです。「トーマスポール」を作るので、今度来たときに、また、覚えておきたいです。

さい後に、部屋にかざる、かんぱんを作ったのが、一番楽しかったです。また、来年が楽しみです。

**高田愛麻**

**今** 年の夏の村団キャンプに行きました。行くときのつたのり物はタクシーでした。みんな楽しくにぎやかにのっていました。キャンプ場についてようふくをきかえました。夜ごはんのお米を自分の家からもってきた、お米を使ってカレーを作りました。でも、お米が、ぼうさい用なのでかたかったので、食べきれませんでした。そしてそのあと、菌みがきをして、ねる用意してねました。その次の日、プレートをつくりに行きました。みなもと館の所で作りました。作ったのは車をはしるやつを作りました。長い時間で作りました。そして帰ってラリーをやりました。ぼくたちの班の名前はパンダ班でした。それでパンダの名前がついてのじゃないとだめだったのでカンパパンダ VS スカウトでした。そのあとキ



ャンプファイヤーをやった次の日、帰りました。一番思い出にのこったのは、キャンプファイヤーでした。ドラえもののげきをやりました。前からずっとれんしゅうしました。ぼくはジャイアンでした。だし物はジャイアンのリサイクルなのできんちょうしました。パンダ班のもすこしきんちょうしました。すごく楽しかったキャンプでした。

**酒井 諒**

**ぼ** くは、とても楽しみにしていたキャンプに行きました。キャンプ場には、タクシーバスで行きました。キャンプ場についてからバンガローで少し休んでからごはんを自分たちで作りました。そのあと、ごはんを食べてから、少しスタンプ練習をして、ねました。

次の日、また朝にスタンプ練習をしました。そのあとに、ラリーをやるはんをきめて昼ごはんを食べてビーバーが川あそびに行つてからははんのスタンプを決めました。ラリーがおわつて3位になりました。そして、キャンプファイヤーをやる時にぼくはドラえもののげきをドラえもんをやりました。そして、はんのげきをやっておわつてから歌やげきをみていました。

**宮井駿岳**

**キ** ャンプに行きました。キャンプファイヤーでは、火がぼうぼうとなっていました。スタンプでは、少しあつかったです。でも、

楽しかったです。次の日プレーと作りにいきました。そこには、糸のこやノコギリがありました。ここでは、走る車やかざりを作っていました。

前の日火おこしをしました。たいへんだったのもあつたし、楽しかったのもありました。次の日トーマスポールを作りました。楽しかったです。その次にバスにのりトランプをしました。楽しかったです。

**野口矢真人**

**キ** ャンプ場に着くと木だらけだった。広場に9人のりタクシーがとまった。そのすぐ上にこやがあつた。それは全部で3つあります。いちばん右は「つゆ草」、真ん中は「かっこう」、いちばん左は「星空」でぼくはさいしよいちばん右の「つゆ草」でねました。次の日はかっこうでねました。でもそのときみやいくんと酒いりょうくんは「あまのがわ」というこやへ行つてしまいました。その日の昼のプレートを作りに行きました。でも、ちょうしぱい作になりました。「ガーン」と思いました。下におりたら、ひとつまみくれました。

その日の夜、キャンプファイヤーをしました。プログラムで「ドラえもんジャイアンのリサイクル」をやりました。ぼくは、のび太やくだから、めがねを買つてよいしていました。でもパンダは、げきのとき、ぼくは、スカウトやくをしました。楽しい楽しい楽しいボーイスカウトのキャンプファイヤーでした。

**中村甲一朗**

# BS

## ボーイ隊

### 一年を振り返って

#### ( 今年の思い出 )

##### 木村海生

**今**年は改めてキャンプは最高だと思った。今年の夏キャンプは部活の都合で一泊しかできなかったが、班キャンプは最高に楽しかった。

班キャンプは、場所やプログラム、食事のメニューなどをすべて自分たちで決めるといったところが、とてもよかった。これをやりたいと決めれば、リーダーたちに文句も言われずに実行できるし、なによりよかったのは隊長や副長などがいないからとても楽しいし、うれしかった。が、その班キャンプをする前に、計画書をつくるのに苦労した。パソコンがまったく使えないので藤澤君と協力してやったが、作るのに五日くらいかかった。でも、苦労した分、とても楽しみだった。

班キャンプ当日、重い重いテントをもつながら、電車に乗ったり、キャンプサイトに行くときはとてもつらかった。けど、キ

ャンプサイトに無事ついたときは、達成感が少しあった。みんなで手分けしてキャンプサイトの設営をしたときは、スムーズに作業ができて団結があつてよかったが、そのあとのまき集めのときは、ほとんど湿っていて、一日目はガスコンロを使ってしまい、あまりボーイスカウトらしくなかった。

二日目の朝食の時、僕がチーズを持ってくるのを忘れてしまい、班長が恥をかいてしまった。昼には流れが早い川に入り、あまりシャワークラ임と言えないシャワークラ임をしたが、けっこう楽しかった。紅茶パーティーでは、一日目に隊長からもらったおかしを食べながら紅茶はとてもおいしかった。

最終日は朝早くで大変だったが、てつ営も設営日みみたいな団結力があつてスムーズにできた。バスも予定より少しおそかったが、無事忘れ物なく出発できた。

今回の班キャンプで、僕らの班は団結力がとても強くなったと思う。なぜな

ら、設営・てつ営のときはスムーズにできたし、食事の会話も楽しく、笑いがとだえなかった。これは、僕にとって理想のキャンプだと思った。来年もこのような班キャンプをまたしたいと思った。

#### ( キャンプ )

##### 守田 渉

**今**年のキャンプは色々なことがやりとげられたと思います。今までは技能を持った人にたよっていましたが、班長が部活で前半の活動に出られなかったため、自分でやる事が多くなりました。立ちかまどがうまく作れなかったり、朝起きられなかったりと失敗することがありましたが、早い時間でサイトを作ることができたり、ピザを生地から作ったりと積極的に楽しめたと思います。これからも班長にたよらず、班を支えていきたいです。

#### ( 班キャンプ )

##### 川村亮太

**ぼ**くはこの一年のボーイスカウトの活動をふり返ると、一番印象に残ったのは、班キャンプでした。ぼくは今までボーイスカウトのキャンプに出た経験が少なく、すごくたのしみしていました。けど班キャンプは、テントや食材、調理器具などを自分たちで持って行かないといけないので、今までカブスカウトや学校でしてきたキャンプとはちがひ、すごくつかれたのを覚えています。でも、いっしょに荷物をもちあつたり、いっしょにテントを立てたり、いっしょに料理を作ったりと、仲間たちとの楽しい時間をすごせたので、苦労したかひがあつたなと思います。

僕はこのキャンプを通して、いっしょうけんめいに努力してこそ、その先に最高のよろこびがあるということを学びました。だからこれからも、ボーイスカウトだけでなく、いろいろな所でがんばっていきたいです。

#### ( 一年をふりかえって )

##### 笹沼 薫

**ぼ**くがこの一年をふり返って心に残ったのは夏キャンプです。なぜかという、四日間、守田さんと二人で生活したのと、ぼくがボーイスカウトになって初めての夏キャンプだからです。

キャンプ生活の一日目は、守田さんと隊長たちといっしょにキャンプ場に行きました。そして、守田さんと副長とテントをたてて、守田さんと二人だけで立ちかまどをつくりました。

二日目はあまりちゃんとした活動はありませんでした。

三日目はハイキングに行きました。山頂には別の団のカブがいて、ぼくらは少し下の山小屋で昼ごはんを食べて、休けいしました。そして午後になって下山をしました。けっこう時間はかかったけど温泉に入ってすっきりしました。

四日目は、海生さんとあきらさんとピーバースカウトが来ました。合同プログラムでクイズやキムスをやって楽しかったです。

そして五日目は、木の枝に「K5」と名前を書いて丸太のような物につけて帰りました。帰る時はカブと同じバスで帰りました。

ぼくは行ってみて、思ったよりも楽しかったし、立ちかまどの立て方や堀をほる位置などを学びました。

#### ( 一年を振り返って )

##### 瀧 壮馬

**1**年をふり返って思い出すことは、4月14日と4月15日の隊キャンプです。

1日目はキャンプする所につくまでにもつが重くて30kgぐらいあるようにかんじました。そしてついたら、雨がふっていたのでキャンプをしたらいへんなことになるなと思いました。そのあとテントをたてる時は雨が早くやんでほしいと思いました。

夜になってかんせいしたら、夕食のじゅんぴになつたけれど、このじてんですごい時間がたつたようなかんじがしました。あと、すごくつかれたので、夕食のじゅんぴはなかなかすすみませんでした。そのあとの時はなかなかねれませんでした。

2日目になって朝おきたら、くつの中にどろが入っていたのでとりました。あと体がいたかったです。けっこうつかれたけど、たのしかったです。



4月14日～15日に行われた隊キャンプ。野営地は「鎌倉土建の資材置場」を使用。初日は完全な雨天の中での設営～夕飯となり、スカウトは大変だったと思うが、A型テント+食堂フライの設営、時間通りの夕飯を達成した。



# 単独踏破を、俺はやる

～感動を与えるために～

◎日時：2012年8月3日～5日

◎於：神奈川県鎌倉市～山梨県道志村

◎報告・プログラム運営：木村航洋



ベンチャー隊

## 平成24年度 夏期遠征報告



### 内容

- ・単独での移動野営
- ・丹沢での主脈縦走
- ・上記を実施するための装備の軽量化の実践

### 目的

夏の村への往路を単独での移動野営によって歩ききること。自身の野外活動におけるスキルアップをはかり、「高度な野外活動」のバッジの取得を目指す。またこのプロジェクトを通して「ちかい」と「おきて」の実践に努める中で自分の行動を示すことによって団後輩スカウトたちに感動を与える。

### 目標

単独独行という過酷な状況だからこそ、落ち着いた判断をすることを心がけ、安全を最優先に行動すること。また、写真撮影を含めた、行動記録を綿密に行うことで、より多くの人に本プロジェクトを理解してもらえるような報告書を作成すること。



塔ノ岳の鹿。角が立派。そばにもう一頭いた。もう一頭の方が角が大きかった。

### 行動の記録

#### 8日3日(金)

- 8:34 自宅発
- 9:11 藤沢駅着
- 9:25 藤沢駅発
- 12:32 湘南銀河大橋着
- 12:56 湘南銀河大橋発
- 14:01 住宅地通過
- 17:39 大倉着
- 17:52 大倉発【途中鹿を目撃】
- 18:22 大倉高原の山の家到着
- 18:31 設営
- 19:07 夕食準備
- 19:31 夕食
- 19:50 身支度
- 20:18 就寝

移動距離 32 km



朝の大倉高原。肌寒い。しかしこの後一気に暑くなった。かなりいい眺め。

#### 8日4日(金)

- 4:42 起床
- 4:57 朝食
- 5:13 テント内清掃
- 5:34 撤営
- 6:07 大倉高原の山の家発
- 6:43 駒止茶屋着
- 6:53 駒止茶屋発
- 7:12 堀山の家着
- 7:21 堀山の家発
- 7:40 天神尾根分岐通過
- 8:17 花立山荘着
- 8:27 花立山荘発
- 8:45 金令し通過
- 9:08 塔の岳着【またも鹿発見】
- 9:24 塔の岳発
- 10:03 竜ヶ馬場着
- 10:07 竜ヶ馬場発
- 10:28 丹沢山着【軽い昼食】
- 10:37 丹沢山発
- 11:08 不動ノ峰着
- 11:16 不動ノ峰発
- 11:31 棚沢ノ頭通過
- 12:12 蛭ヶ岳着
- 12:35 蛭ヶ岳発
- 13:30 地蔵平通過
- 13:54 姫次着
- 14:02 姫次発
- 14:17 八丁坂ノ頭通過
- 15:28 登山道を抜け下山
- 15:54 音久和キャンプ場着
- 16:12 設営
- 16:43 夕食準備
- 17:13 夕食
- 17:28 身支度
- 17:56 就寝

移動距離 21.5 km

#### 8日5日(金)

- 5:37 起床
- 5:45 朝食準備
- 6:01 朝食
- 6:34 テント内清掃
- 6:58 撤営
- 7:35 音久和キャンプ場発
- 10:52 道志中通過
- 11:49 道の駅道志通過
- 13:08 スカイバレーキャンプ場到着

移動距離 19 km



つてにスカイバレーキャンプ場到着。達成感とともに疲れが一気にきた。

## 全体の感想

**今**回の夏季遠征は正直期間内に達成できるとは思っていなかった。あきらめの悪さと気合いと意地が今回の遠征を成功させたんだと思う。

はじめ、無人島でのサバイバルキャンプがニーズとして出されていた。色々な案がでて悩んでいたころ守田の遠征の出席不可を知らされた。そんなときに三浦隊長が家から道志村の団の夏キャンプまで歩くのはどうだろうと提案してきた。自転車じゃ早くついでしまうし、難易度が低いからと言って。三浦隊長に提案されたときは正直冗談かと疑ったが三浦隊長は思いっきり本気だった。初めての遠征でこんなことできるのかと思ったがいつも現実からうまいこと逃げていたので自分を磨くために実行することを決心した。

訓練キャンプでは色々なことが頭に浮かんだ。ほんとにこんな大荷物で家からスカイバレーキャンプ場まで歩けるのか、そればかり考えていた。訓練キャンプでさえこんなつらいのに……本当にこればかり考えていた。

●  
本番初日は学校に行くときよりもかろく「行って来る」としか言わなかった。たとえ心配されても「へいへい」くらいしか言わなかった。心のどこかで逃げる前にさっさと終わらせたかったのかもしれない。歩いていく内に少しずつではあるが前向きになっていった。だが湘南銀河大橋をすぎた頃、横を通り過ぎたバスを見た瞬間急にペースが落ちた。バス停を見るたびにバスと電車で大倉まで行ける、そう思うまでになってしまった。気づいたら裏の路地に入っていた。乗る前に逃げたんだと思う。そこでペースをあげた。さっさと大倉まで行けばこんな雑念なんて消える、そう思いながら歩いた。そんなこと思いつつ大倉高原に着いた。

すぐにテントを張った。明るいうちにすますためである。食事も早めにとった。8時には明日に備えるために寝た。しかし、外から妙な音がした。誰もいないはずなのに足音がするのだ。何か近づいたかと思うと、なんとテントを突っついてくるのだ。正直1人だったせいか怖かった。幸い何事もなく何かは去っていった。こうして初日が終わった。

不安の中2日目が始まった。訓練の時は、多くの人がいたのにこんな日に限

って人が少なかった。何かあったときのことが心配だった。何も考えられず、ただただのぼるだけだった。塔ノ岳まで登っていくのは訓練のおかげでさほど苦には、ならなかった。だが、後半はそうはいかなかった。じめじめとした天気は自分のモチベーションを崩していった。やる気が失せるというか……。

丹沢山の頂上で昼食をとり一息ついた。こちらへんが約半分くらいだった気がする。だがまだ最高峰蛭ヶ岳まで登らないといけない、そう思いながらまた歩き出した。そのころには僕を含め3人しか蛭ヶ岳を目指していなかった。荒れた道をひたすら歩いていった。何にも考えられない、むしろ何も頭に浮かばないと言った方が正しいかもしれない。

蛭ヶ岳からの下山はたった1人だった。何か起きて誰も助けてくれない、そんな状況だった。登山道が荒れていたにもほどがある。木々は倒れ、道は大荒れ、人が登ってこないような状況だった。大切な登山地図もいつの間になくしてしまった。少し見にくいコピーした地形図があったのでなんとかはなかった。しかし結局は道に迷ってしまったが登山道を抜けていたので幸い何とか元の道に戻れ、土田副長とも合流できた。この瞬間肩の力がどっと抜けた。安心したのかもしれない。キャンプ場では大幅に宿泊費をまけてくれたのでラッキーとしか思えなかった。土田副長とも話しすぐにテントを張った。土田副長が帰るとすぐに夕食にし、寝る支度をした。この日はとても落ち着いて眠りにつけた。

3日目、5時半過ぎに目が覚めた。予

定より1時間くらい早く目が覚めた。寝れなかったのもそのまま朝食にした。食欲がなくパン一つが限界だった。さっさと片づけ、管理人さんに挨拶をして出発した。ただただだらだらと続く長い道をひたすら歩いた。アスファルトなだけあり反射熱がすさまじく熱かった。電波も悪く連絡もできないような状態だった。近づくにつれだんだんと達成感がでてきた。もう少しもう少し思いながら。スカイバレーキャンプ場に入るとすぐそこにみんながいた。達成感とともに疲れがどっときた。歩ききれて良かった、それしか思わなかった。

今回自分の中で成長したのは絶対あきらめたりしないことである。今回の遠征では自分のスキルアップのほかに感動を与えることも目的だった。

スキルアップに関しては登山および移動野営に関して自分を磨けたと思う。1人という過酷かつつらい状況の中で歩いていけたのは自分でも評価できる。普通の人なら嫌な状況でも歩いた、それが自分を磨きかつ感動を与えるために必要だったからである。

団のみんなに感動を与えられたかどうかは自分では評価できない部分がある。与えることができればうれしいのだが、次回や今後の私生活にいい影響があればよいと思う。がんばった自分には感謝のみ。

**V**  
**S**  
ベンチャー隊



武勇伝に聞き入る後輩スカウトたちの目はキラキラ。感動させることができたようで……